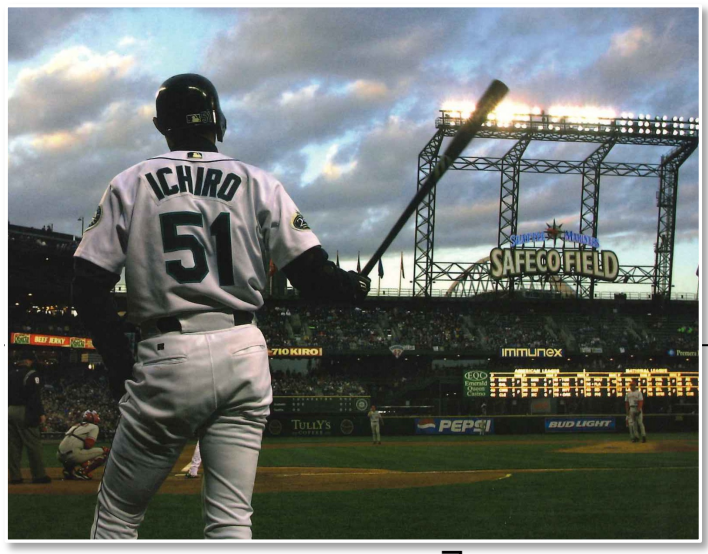
片桐英数塾通信

坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com

「理想」に向かっていくということ

イチロー選手の引退に思う



三十一年続いた平成が終わり、いよいよ新しく令和が始まります。今は歴史的にも分かりやすい時代の変わり目です。私にとっては三十一年もあったとは思えないくらい早く過ぎ去ったように感じる平成なのですが、さて自分にとっての平成とは何だったのだろう？ 学生から社会人になり、社会のことを教えてもらい、自分の未熟さを学んだこと。塾を家族で始め、いろいろと様々なものにぶつかりながら、本当に多くのことを今も学んでいること。そして少しは成長できたような気もすること。他にもたくさんありますが、自分として、本当に平成には世話になったなぁ……と感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな平成が終わりに差し掛かりつつあった三月二一日。イチロー選手の引退のニュースをインターネットで知りました。一九九四年にイチロー選手が当時の日本プロ野球記録を塗り替え二一〇本の最多安打を記録した時からの大ファンである私は、このイチロー選手引退のニュースには驚きました。いや、もっと言わせて頂きますと、二〇〇四年に二六二本の大リーグ記録を達成してからは、もう居ても立っても居られない心境になってしまい、二〇〇六年に当塾坂本教室の改修工事に時間がかかることをいいことに、その時間を利用して、シアトルマリナーズの本拠地のセーフコフィールドまでイチロー選手を見に行ったほどのファンですので、私の中に「イチロー ロス」という虚しさの嵐が吹き荒れたという方が正しい表現かもしれません。それほどまでに私の中のショックは大きいものでした。

「あ～ぁ、イチロー選手も引退したかぁ」とつまらなく思いながらも新聞を見ていると、TVにイチロー選手を特集した番組があるではないですか。そのTV番組があったのが原稿を書いている今から約二週間前。この約二週間で何度その番組の録画を見たことか……。我ながら自分を変だと思いつつも、飽きずにまだ見続けています。一人の天才の最初から最後までを、同じ時の中、見てこれたことに喜びを感じるとともに、やはり寂しさも感じながら。

何度も何度もその番組の中で語るイチロー選手の言葉を噛みしめるように聞いているうちに、ある疑問が沸き起こりました。イチロー選手は自分の理想とするものを求めて、こだわり続けて頑張ってきた選手です。その理想を追求する情熱は常軌を逸すると表現しても言い過ぎではないほどのものです。理想とする生き方は、それが大きいものであれ小さいものであれ、それぞれの人の中にあると思います。しかし、その理想のためとは言え、常軌を逸していると表現できるほどの情熱をもって向かっていけるものなのだろうか？ 正直なところ、もし理想を追いかけることに気持ちが折れそうになれば、私は理想を下方修正してしまうと思います。それに、自分の掲げる理想というものが万人に賛同してもらえるものならば、その理想に向かうモチベーションも自然と上がると思います。イチロー選手の理想というものも、もちろん多くの人に認められたものであったのですが、一方でそうではないことも少なからずあったように思います。

ヒットを狙うイチロー選手のバッティングは長打を良しとする人たちには認められにくかったと思いますし、安打数を目標にする点においては、「チームよりも自分のことばかりだ」と責められることさえあったようです。

もし、「これが自分の理想だ」と思い、その理想に向かって懸命に努力している中、他人から「そんな理想、間違えている」と指摘されたり、「そんな理想持ちやがって」と責められたとすると、私はそれでも自分の理想を、高いモチベーションもって追いかけることができるのだろうか。そんなことを考えてみて、あらためてイチロー選手の素晴らしさを思います。

「理想」そのものについても考えさせられました。「これが自分の理想だ！」という明確な理想のイメージがあって、それに向かっていくという感じでイチロー選手はやっているものだと思っていたのですが、そうではありませんでした。どうやら「理想」というものはぼんやりとしたものであり、明確なイメージのものではないようです。では、そのぼんやりとした「理想」に近づくためにどうするのか？ これについてはイチロー選手が番組の中で語った言葉をここに載せます。

どんなに輝かしい記録を残したとしても打撃を変えることをやめなかったことを問われ「(理想の打撃の)最終的な形はないということです。残酷なことなんですが。だから前に進もうという意欲が生まれてくるとも言えるんですけども。後退することももちろんあります。本当はしたくないんです。そのままずっと上がって行きたいんです。前に進みたいんです。なかなかそうはいかない。はっきりしているのは近道はないっていうことです。後で考えると遠回りだったな。省けたらよかったな。と思うことは確かにあります。でもそれは一番近いです。あるぼんやりとした自分の理想に近づく一番の方法は、遠回りをすること。今ははっきりと言えます」。(番組の中でのイチロー選手の言葉)

多様性の時代と言われるように、価値観も画一的なものから多様化してきていると思います。今後、その流れはますます勢いを増して変わっていくとはよく聞きます。そんな中、価値や理想を決めるのが自分自身となる局面が今後ますます増えてくるとすれば、イチロー選手の「理想」へと向かう姿勢は参考になるのではないでしょうか。

「笑って死にたい(引退したい)。理想はそうだったんですよ。それも夢に近い理想。笑って死ぬということは。でも現実はなかなかそうはいかない。寂しく終わっていく。でも結果的には、日本のファンの人たちがその夢を叶えてくれた。僕が笑って死ねる状態を作ってくれた。そして実際に笑って死ねた。どうしてそんなことをしてくれたんだろう。今でも考えています。自分なりに頑張ること。これを人は見てくれたんだなって」。(番組の中でのイチロー選手の言葉)

一つの時代が終わり、新しい時代が始まろうとしている今、自分の理想に向かい、近道よりも遠回りで、前向きに、一歩一歩踏み出して、自分なりに頑張っていくこと。これが今、とても大切なことに思えてなりません。

片桐英数塾からのお知らせ

塾スタッフ募集中！

天神教室・坂本教室の5月のお休みは、

5月2日(木)～5日(日),12日(日), 19日(日), 26日(日)です。

5月22日(水)は県外出張のため坂本教室は19時からとなります。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

第1回全統高1・高2模試

5月25日(土)実施

申込締切日 5月15日(水) 受験料 5,400円

普段の学習の修得度の把握はもとより、大学別学力評価により、模擬受験時点での志望大学までの学習到達度を全国レベルで測ることができます。

※試験会場は坂本教室です。受験希望者は、別紙実施要項を確認の上、締切日までに受験料を添えて申込んでください。締切後の変更・キャンセルはできません。

映像授業で万全の入試対策を！

卒塾生おすすめ講座を一部紹介。英語は安部先生の「勝利の方程式」と「スイスイ」シリーズ。二次数学対策に吉田先生の演習講座、現代文、古典の苦手な人は「高校現代文、古文、漢文」を1、2年生から早めに受講。化学は藤田先生、物理は合田先生、生物は杉村先生の講座が鉄板。松田先生の日本史、蒼山先生の世界史、中井先生の地理で社会を得意科目に。詳しくは坂本教室まで。受講相談随時受付中！

新入社員紹介 ～松川千夏先生から塾生の皆さんへ～

この春から社員として片桐英数塾で勤務させていただくことになりました、松川と申します。
私自身片桐英数塾の塾生として高校3年間とてもお世話になっていました。塾生同士みんな仲が良く受験勉強中、競い合ったり互いに励まし合ったり、大きな声で笑いあったりしたこと、ここには高校時代の良き思い出がたくさんつまっています。皆さんの先輩でもあるので、気軽に何でも相談して欲しいと思っています。お話しすることが大好きなので、いつでも気軽に話しかけてください。
日々勉強に励む塾生の皆さんを心から応援しています。少しでも皆さんの力になれるよう尽力していきます。よろしくお願いします！

塾生の皆さんで LINE 登録がまだの方は、こちらのQRコードを読み取り、名前を送信してください。映像授業の予約、変更や面談などの予約、欠席のご連絡などＬＩＮＥでいつでも受付けています。高校生は中間テスト発表後、特別時間割の日時をお知らせいたします。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

Copyright © 片桐英数塾. All Rights Reserved.